



南部町立南部中学校 学校だより 第21号

チーム南部中

令和5年2月20日(月)
校長 望月和彦

親和的な集団づくりのために

生徒たちが毎日楽しい学校生活を送るためには、学校での生活拠点である学級が、一人一人の生徒にとって安心できる居場所、親和的な集団であることが必要です。本校では数年前から、それぞれの学級で朝の会・帰りの会や授業中のちょっとした余った時間を使って、「フリートーク」という活動が行われています。何かお題を決めて、学級の中でちょっとした会話、意見交換をする活動です。お題は「無人島に何か一つを持って行くとしたら何を持って行くか」「好きなテレビ番組は」など楽しそうな内容もあれば、「今のクラスの良いところは」「自分の将来の夢は」など真面目な内容もあります。最初のうちは、クラスメイトの中でも気心が知れた特定の友だちや同性同士が話し相手になりますが、



年間を通じて行っていると、普段あまり話をしないクラスメイトや男女でも普通におしゃべりができるようになります。今ではどの学級でも、誰とでもフリートークができ、一人でいる生徒がいるとそれに気付いただれかが声をかけてみんなで楽しむことができるようになってきました。居心地の良い学級であるためには、学級のすべての生徒同士の間で気軽に話ができる雰囲気が必要です。フリートークをたくさん行うことで、より良い関係性が生まれてきています。



学級や学年の垣根を取り払って、全校の生徒間でも何でも話ができる関係づくりの取り組みも行われています。以前に紹介した生徒会事務局主催の「身につけたい力交流会」もそうですし、生活委員会が朝読書の時間を使って行っているフリートークもそうです。2月14日の朝には、「南部中学校の今の課題は」というお題で、1・2・3年生が混ざった教室で、それぞれが相手を見つけてフリートークを行っていました。また、2月16日の6校時には、学習委員会主催の「自主学習ノート交流会」が行われました。1・2・3年生が混ざった4~6人のグループで、それぞれが自分の自主学習ノートを見せ合いながら、より良い自主学習ノートの作り方について意見交換をしていました。3年生がリーダーシップをとって、1年生や2年生にアドバイスをしている姿も見られました。

こうしたフリートークや交流会、グループトークなどの親和的な集団づくりのための取り組みは、新たな「南部中文化」として定着してきています。

送る会や卒業に向けて それぞれの学年の動き

2月22日(水)には新生徒会主催の「3年生を送る会」が行われます。今年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、3月9日(木)の卒業式には在校生代表1名だけが参加し、他の1・2年生は参加することができません。したがって、3年生を送る会は、1・2年生が3年生



に感謝の気持ちを伝え、3年生の門出を祝福する最後の機会となります。実行委員会の計画に沿って、新生徒会事務局は会全体の流れや3年生に贈る言葉を考えています。1・2年生の学級役員は、記念品、スライド、招待状・装飾の3つの部門に分かれ、3年生に贈る心のこもった記念品の制作、3年間を映像で振り返るスライドの制作、招待状や会場の装飾物の制作に取り組んでいます。また、1・2年生の応援委員は当日披露する



応援の練習に毎日取り組んでおり、学級役員以外の1・2年生も会場装飾を手伝ったり、拍手による応援練習に取り組んだりして、1・2年生全員で3年生に喜んでもらえるように力を合わせています。こうした取り組みを通して、2年生には最上級生になる心構えが、1年生には先輩になる心構えが育ってきています。

一方、3年生は山梨公立前期入試、山梨・静岡の私立校入試が終わり、3月3日・4日の山梨公立後期入試と静岡公立入試が直前に迫ってきているところです。入試に挑む生徒たちには最後の一踏ん張りを期待していません。2月15・16日には中学校で最後の学期末テストも終わり、卒業アルバムや卒業文集も完成を待っている状況です。送る会や3月9日の卒業式の準備は、すでに入試を終えた生徒たちが中心になって取り組んでいます。3年生が残りの中学校生活の中で何を感じ、どんな姿を見せ、どんなものを残してくれるのか、今からとても楽しみです。



保護者や地域に学校を開く

本校は学期ごとに3日間の学校開放期間を設け、保護者や学校関係者の方々などに授業や教育活動、生徒たちの様子を見てもらっています。1月18日(水)から20日(金)の3日間には、3学期の学校開放を行い、保護者、町内小学校と身延高校の先生、学校運営協議会委員、教育委員の方々、合計21名の方々が来校してくださいました。御意見・御感想記入用紙に書かれていた一部を紹介します。

- ・どの授業も丁寧で、先生と生徒たちの一体感を感じました。パソコンやモニターを使った授業は私から見てわかりやすく効率的で、時代の流れを感じました。
- ・授業のはじめに先生が映像を使って解説した後に、生徒たちの活動に入りました。スムーズに自分たちで準備を進め、グループで考え意見交換しながら学習を進めていました。主体的に学習に取り組む姿勢が見られました。
- ・質問を投げかけたときに生徒が意欲的に答えており、明るい授業でした。タブレットで指示されたこと以外の活動をしていた生徒がいたので、使用上のルールを決めておく必要があるのではないのでしょうか。
- ・短時間の見学でしたが、皆あいさつをしてくれたり、扉を開けて「どうぞ」と言ってくれたり、優しい生徒たちだと感じた。
- ・靴箱の整理整頓が素晴らしかった。

※高校の先生方からは、授業内容について中学校と高校の内容の接続を考えたアドバイスもいただきました。

「箏曲」を学ぶ

1月17日(火)18日(水)の2日間、1年生がクラスごとに箏曲を学習しました。箏曲の学習では、毎年楮根にお住まいの若林卓子先生がゲストティーチャーとして指導してくださっています。生徒たちは、箏の歴史や各部分の名称、扱い方などを教えていただいた後で、実際に箏爪を付けて“生田流”の演奏技法を教してもらいました。最初はおそろおそろ弦を弾いていた生徒たちも、4時間若林先生に指導していただいたお陰で、自信を持って演奏できるようになりました。授業の最後には、全員で「さくら」を合奏できるようになるまで上達しました。若林先生から「南部中の生徒たちは真面目で素直ですね。一生懸命練習してくれたのでびっくりするほど上達しましたよ。」とお褒めの言葉もいただきました。校舎には心地よい箏の音色が響き、生徒たちが、日本の伝統文化を学ぶ大切な機会になりました



「睡眠のススメ」

1月30日(月)保健給食委員会主催の保健集会がオンラインで行われました。テーマは「睡眠のススメ」。最初に



行ったアンケートでは、本校生徒の30.1%に睡眠に問題があるという結果が表示されました。「なぜ睡眠が必要なのか」「ぐっすり眠るためにはどうしたら良いのか」について保健給食委員会が説明し、それを受けて生徒各自が「今の生活をチェックして、取り組むこと」を考えました。最後に佐野舞養護教諭が「現代人が心身ともに健康で安心して生活していくためには、生活習慣を整えることが必要です。毎日の生活習慣は、自分の生き方につながっています。」と、生徒自らが生活習慣を整える大切さを伝えました。そのための手立てとして、本校では2学期から「生活リズム記録シート」の取り組みを行っています。

詳しくは「保健だより No.16」をご覧ください。